

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

「税金」がつくる当たり前

長岡市立東北中学校

三年 上村 桃子

「税についての作文かー。」

夏休みの課題で配付された時、何を書いたらいいか、税についてよく分からなかった。自分にはまだ関係が薄く馴染みの無いものだと思っていた。社会の授業で「税のない世界」の動画を見た。私も主人公と同じで「税金なんかなくなればいい」と思っていた。税について調べ、税金は生活の支えになっていると知り、私は間違っていた考えで無責任だと思った。自分事として捉え自分に出来ること、税金についてもっと知りたいと思った。

新型コロナウイルスの流行により不安な気持ちや制限がある中でも学校で大好きな友達と話したり遊んだりできるから毎日元気に生きていける。私は学校が大好きだ。みんなと一緒に授業を受けたりおいしい給食を食べたり安全に楽しく学校生活が送れているのは、「税金」のおかげだ。

新学年になると一人一冊無償できれいな教科書が配られる。当たり前の事だと思っている人が多いと思う。しかしアフリカの学校では教科書一冊を三人で使ったり教科書のページが合わないことが少なくないそうだ。お下がりの教科書や下の学年に受け継がれる国も多くある。学びたくても学べない多くの子どもたち

の夢や目標を叶える手助け、将来の架け橋になることを願い、日本では多くのプロジェクトが行われている。だから税金によって無償で一人一冊教科書が貰えることは幸せで感謝の気持ちを持ち大切に使用していきたい。

私は給食が大好きだ。特にカレーが好きだ。ホカホカでモチモチのご飯と具材がゴロゴロ入った温かくて調理員さんの思いがこもったカレーは格別に美味しく毎日食べたい。世界には八億四千万人以上の人が満足に食べられていない。だから給食が毎日食べられることは本当に幸せなことだ。私は中学一年生の時「食品ロス」について作文を書いた。まだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスが日本でも増えている。より多くの人に私の作文を読んで食べ物の大切さを知ってもらいたく一生懸命書いた。私のクラスは給食の残量が多い。給食の残りを見て「もったいない」と思ったし、給食にかかるお金は給食費と税による補助で成り立っているから、税金も、「もったいない」と思った。

新潟県では食品ロスを減らすために「エコレシピ」や「もったいないレシピ」がホームページに公開されている。食品ロスを少しでも減らすために私も好き嫌いせず、食べ物を大切においしく残さずに感謝して食べたい。

私たちの当たり前の日常は「税金」によって支えられている。税金の大切さ、学校に通えること、おいしい給食が食べられることなどの幸せさや感謝の気持ちを忘れずに生活したい。大人になったら、未来ある子どもたちが安心して自分らしく生きる社会、笑顔がたくさん生まれる豊かで助け合い、尊重し合える社会を作るために責任を持って納税したい。